

# 現代中国語における助動詞と 副詞の語順について

沢 田 博 美

## 0. はじめに

“能再去”，“还能去”において，共に副詞である“再”，“还”の位置が，一方は助動詞の前，一方は助動詞の後ろというように異なるのはなぜか。そもそもこれらの語順は固定しているのか，していないのか。固定していないとすれば，“再能去”，“能还去”は成り立つのか。本稿は，このような疑問から，助動詞とその前後に現れる副詞の関係を明らかにしようと試みるものである。

この問題を考えるにあたり重要と思われる，文における命題とモダリティについて特に記しておきたい。モダリティと命題については，既に各言語に共通の理論的基盤として研究が進んでおり，その概念の有効性も多くの言語において確認済みのものとなっている。

中右1980によれば，そもそも発話行為としての文は大きく分けて二つの構成要素つまり命題とモダリティから成ると言う。命題とは話者が切りとった現実世界の状況を叙述したものであり，モダリティとは発話時における話者の心的態度を叙述したものである。命題は話者によって客体化された話者の外側にあるとされる客観的世界を指示し，一方モダリティは発話時という瞬間的現在においてのみ有効な，客体化できない話者の内側の主観的世界を指示したものである。

これらの概念は，現代中国語においてもまた有効であると考えられる。助動詞と副詞の語順を考えるにあたって，これらを見捨てて進めることはできない。本稿においては，副詞の中でもモダリティ性が高いと考えられる，語気を表す副詞を中心に，この問題について考えていこうと思う。

## 1. モダリティと命題による仮説

まず、助動詞“要”と疑問詞“怎么”を用いた例を取り上げてみよう。

(1) 你<sup>。</sup>怎么<sup>。</sup>要走<sup>。</sup>?

(2) 你要<sup>。</sup>怎么<sup>。</sup>走<sup>。</sup>?

(1)は「あなたは どうして 行ってしまう のですか?」となり、“怎么”は「あなたは 行ってしまう」という現実世界の叙述(命題)に対して、「どうして?」という話者の心的態度(モダリティ)を表す。一方、(2)は「あなたは どうやって 行くつもり なのですか?」となり、“怎么”は方式、手段を問う用法と言われる。(2)に対して、

(3) 我要<sup>。</sup>坐<sup>。</sup>地铁<sup>。</sup>走<sup>。</sup>。

と返答したとする。この時の“坐地铁”は、話者の心的態度(モダリティ)を表すものではなく、命題の一部すなわちどうやって行くかを表すものとなっている。以上を単純化して示せば、同一の“怎么”でも、

助動詞“要”の前 → モダリティ成分

助動詞“要”の後ろ → 命題の一部

となる。こうしたことから、モダリティを表す副詞は助動詞の前に、命題の一部となる副詞は助動詞の後ろに現れるのではないかと考えられる。本論においては、この仮説のもとに検討を進めていくことにする。なお、軸となる助動詞自身のモダリティ性については、今は触れない。

## 2. 助動詞と副詞の分類

### 2.1 助動詞の分類

助動詞には代表的なものとして、主に以下のようなものが挙げられる”。

・原義用法 (Root 用法) の助動詞: R類

“应该, 应当, 得” ~すべきである, ~ねばならない : R1

“能, 可以, 会” ~できる, ~してよい : R2

“要, 想, 愿意, 肯, 敢” ~したい, ~するつもりだ : R3

“值得, 配, 可以” ~する価値がある, ~する資格がある : R4

・陳述緩和用法 (Epistemic 用法) の助動詞: E類

“会, 要, 该, 应该, 得, 能, 可能” ~かもしれない, ~にちがいない: E

## 2.2 副詞の分類

劉月華等1983をもとに, 副詞を以下のように分類する。

- 1) 時間を表す副詞: 已经, 正在, 就, 马上, 才
- 2) 範囲を表す副詞: 都, 净, 只, 光
- 3) 反復・頻度を表す副詞: 又, 再, 还, 也
- 4) 程度を表す副詞: 很, 非常, 最, 更, 稍微
- 5) 語気を表す副詞: 幸亏, 难道, 到底, 偏偏, 反正, 倒, 也许, 好在
- 6) 肯定・否定を表す副詞: 不, 没有, 一定, 必定, 必然
- 7) 様態を表す副詞: 依然, 亲自, 互相, 渐渐
- 8) 接続を表す副詞: 就, 也, 才, 都, 又, 还

## 3. 副詞の分類からみる, 助動詞と副詞の語順

助動詞と副詞の語順とは, 助動詞を中心に副詞を位置によって大別するもので, 大きく二つに分かれる。一つは助動詞の前に来るものであり, 一つは助動詞の後ろに来るものである。前者は, 助動詞それ自身或いは助動詞を含む述語全体を修飾する。後者は助動詞の目的語内にあり, 目的語の一成分となる。助動詞と副詞は, それぞれ連用することができる(例: 想要, 应该能/已经快, 马上就)が, 本論においては, 両者が単独で現れる場合に焦点をあてる。

### 3.1 各副詞に見られる語順

2.2の副詞の分類から, 手元にある例文を整理すると以下のようなことが分かる。

- 1) 時間を表す副詞: 助動詞の前後に現れる。文頭に現れるものもある。  
(4) 他已经可以吃东西了。  
(5) 小黄愿意马上开始学习。
- 2) 範囲を表す副詞: 助動詞の前後に現れる。文頭に現れるものもある。  
(6) 他只会讲汉语, 不会讲英语。  
(7) 不能净听你一个人的, 还要听听别人的意见。
- 3) 反復・頻度を表す副詞: 助動詞の前後に現れる。

- (8) 你还可以见到他。
- (9) 你能再念一遍吗？
- 4) 程度を表す副詞：助動詞の前後に現れる。
- (10) 我很愿意住在这儿。
- (11) 我应该稍微休息会儿了。
- 5) 語気を表す副詞：必ず助動詞の前に現れる。文頭に現れるものもある。
- (12) 我偏要走。
- (13) 大概今天能放晴了。
- 6) 肯定・否定を表す副詞：助動詞の前後に現れる。文頭に現れるものもある。
- (14) 他没能吃饭。
- (15) 我想不去。
- 7) 様態を表す副詞：必ず助動詞の後ろに現れる。
- (16) 会议还没有讨论，我不能擅自决定。
- (17) 我们应该互相帮助，互相学习。
- 8) 接続を表す副詞：必ず助動詞の前に現れる。
- (18) 我们不但会革命，也会建设。
- (19) 发展生产，才能提高人民的生活水平。

これらをまとめると、

- A類〈助動詞の前にしか現れない副詞〉：語気を表す副詞，接続を表す副詞
- B類〈助動詞の後ろにしか現れない副詞〉：様態を表す副詞
- C類〈助動詞の前後に現れる副詞〉：時間を表す副詞，範囲を表す副詞，反復・頻度を表す副詞，程度を表す副詞，肯定・否定を表す副詞

となる。1.における仮説を

助動詞の前 → モダリティ成分

助動詞の後ろ → 命題の一部

のように記すことができるが、A～C類をこれに当てはめると、A類はモダリティ成分、B類は命題の一部ということになる。この分類テストによれば、興味強いことに、接続を表す副詞はA類に属し、モダリティ性が高いと分類される。

B類の様態を表す副詞は、動詞の表す動作を描写するので動詞と密接な関係にあり、助動詞自身や助動詞を含む述語全体を修飾することができない。状語が連用される場合も、様態を表す副詞は動詞に近い位置に置かれる。したがって助動詞の目的語内にもみ現れる。

次節において、これらのことを詳しく考察する。

### 3.2 語気を表す副詞と時間を表す副詞

上記の結果をふまえて、以下において、まずC類の時間を表す副詞を取り上げ、その後、モダリティ成分である語気を表す副詞について詳しく見ていく。

#### 3.2.1 時間を表す副詞

ここで取り上げる副詞は“已经，正在，马上”に限る。“已经”は「すでに、もう」の意味を、“正在”は「(ちょうど)～している」の意味を表し、動作が進行中・継続中であることを表す。“马上”は「すぐに、間もなく」の意味を表す。

さて、時間副詞と助動詞について考える前に、三つの留意点を記しておきたい。一つ目は、先に触れたように、助動詞の目的語は常に命題であること、二つ目はR類助動詞の場合、後続の目的語は未然を表すということである。未然か已然かということは時間副詞の場合、特に関わってくる問題である。そして三つ目は、時間を表す名詞との比較において、時間副詞の現れる位置はどのようであるかということである。例えば、時間名詞“明天”を含む以下の例文を見られたい。

(20) 你能明天去吗？

(21) 你明天能去吗？

(22) 明天你能去吗？

ここから、“明天”の位置が非常に自由であること、位置によって文の意味を





- b. 我得马上去。
- R2 (39) a. 我马上可以给你。  
b. 你可以马上去吗？
- (40) a. 我马上能做完。  
b. 你能马上去吗？

このように、“马上”はR1, R2助動詞の場合、a, bタイプとも成立する。  
しかしR3, R4助動詞の場合は異なる。

- R3 (41) a. 会马上要开始了，你去哪儿？  
b. 他要马上去。
- (42) a. \*他马上想开始学习。  
b. 他想马上开始学习。
- (43) a. \*他马上愿意开始学习。  
b. 他愿意马上开始学习。
- (44) a. \*他马上肯开始学习。  
b. 他肯马上开始学习。
- R4 (45) a. 这个问题值得马上研究。  
b. ?这个问题马上值得研究。

R3助動詞は心理作用を表すので、「R3+“马上”」で、

「～したい」+「すぐにある動作を行う」

は成り立つが、「“马上”+R3」で、

「すぐに」+「心理作用を表す助動詞+目的語」

となるのは、“\*马上喜欢”が言えないのと同様、成り立たない。しかし、“要”は「～しようとしている、～しそうである」という心理作用から離れた意味も持つので、(41) a. は成り立つのだと解釈する。R4助動詞の場合も、共起しにくいようである。

また、次のようにE類助動詞とは共起することができる。

- E (46) a. 他马上会到的。  
b. 他会马上来吗？
- (47) a. 他马上该到了。



b. 他该马上去。

このように意味的制限のためにいくつか共起できないものがあるものの、“已经”，“正在”に比べてずっと自由であることが分かる。

ここで注目すべき点は“马上”が文頭（主語の前）に出られるという点と、助動詞の目的語内に入ることができるという点である。

(48) 马上我就回去。

(49) 我马上能做完。

(50) 我能马上做完。

この節の始めに“明天”を含む例に触れたが、それらと比べると、“马上”は“明天”に非常に近い振舞いをしていることが分かる。つまり、他の時間を表す副詞と異なり、“马上”はその出現位置から言えば時間名詞に近い性質といえてよい。しかし、“明天”が名詞を修飾できるのに対し“马上”はできないという点に、名詞と副詞の違いが現れている。

ここで取り上げてきた三つの副詞は、いずれもC類に属すが、助動詞の前に現れるか後ろに現れるかは、個々の持つ副詞の意義特徴によって決定されている。以下に、上記の結果一覧を示しておく。

明天	E類	明天	R類	明天
马上		马上		马上
	(“应该, 应当”のみ)	已经, 正(在)	(“应该, 应当”を除く)	

3.2.2 語気を表す副詞

語気副詞は3.1で見たように、助動詞の目的語内に現れることはない。これは先に述べたように助動詞の目的語が命題に、語気副詞がモダリティに属するためであると考えられる。

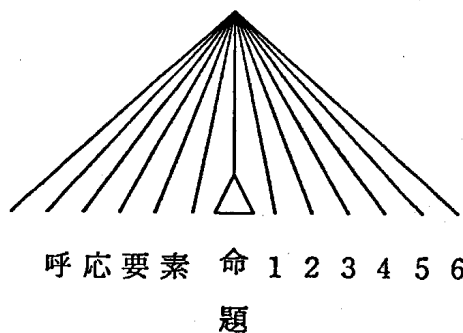
(51) 你定能成功的。

(51)' \*你能定成功的。

(52) 今天大概会放晴了。

(52)' \*今天会大概放晴了。

益岡1991は、モダリティ成分の排列を、以下のように命題に近い順から規定している。



1. 取り立てのモダリティ (も, は, ばかり, ぐらい)
2. テンス・みとめ方のモダリティ (～た, ～ない)
3. 説明のモダリティ (～のだ, ～わけだ)
4. 真偽判断・価値判断のモダリティ (だろう, ようだ, らしい/べきだ, ねばならない, ～ほうがよい)
5. 表現類型のモダリティ (ぜひ, なんて～, ～なあ)
6. 伝達態度・ていねいさのモダリティ (ね, よ, おい)

日本語の語順では、モダリティ成分は文末、文頭に現れる。上の1～6は番号が大きくなるにつれて、文中に現れる位置が文末や文頭に近づいていく。さらに同書では、モダリティを一次的モダリティ、二次的モダリティに分類している。一次的モダリティとは恒常的に主観性を表現するもので、二次的モダリティは客観表現になり得るものである。モダリティ成分は発話時現在の話者の心的態度であり、主観的表現であるから、本来は過去形になったり、否定形や疑問の焦点になったりすることはない。しかし、こうした客観化が一部のモダリティにおいては起こり得る。それらと、常に主観性を表現するものを区別したのが一次的、二次的の区別である。日本語においては例えば、「だろう」は一次的モダリティと言えるが、「ようだ」、「べきだ」等は「ようだった」、「べきだった」のように過去形になれる点、「ようでない」、「べきでない」のように否定形になれる点で、二次的モダリティと言える。これらの文中における順序は、二次的モダリティが内側に、一次的モダリティが外側に現れるとされ、上記の1～6すべてに当てはまる。

中国語の助動詞と語気副詞の間にも、同様なモダリティの階層が見られると考えられる。助動詞のモダリティ性について既にいくつかの研究がなされているが、語気副詞との比較において考えると、助動詞は否定形となり得る点、疑問の焦点となり得る点で二次的モダリティとすることができる。

(53) 你想不想吃饭?

(54) “你能去吗?” “能。”

(53) の例は否定形となる例であり、(54) の例は疑問の焦点となる例である。一方、語気を表す副詞は以下のように否定形にはなり得ない。

(55) \*你不定能成功的。

(56) \*今天不大概会放晴了。

しかし、一部のものは疑問の焦点となり得るので<sup>3)</sup>、語気副詞の中でもさらに分類すべきではあるが、助動詞と比較すると、語気副詞はモダリティ性が高いと言ってよいであろう。これが語順に反映した結果、語気副詞が前、助動詞が後ろに位置づけられるものとする。

このようなモダリティ性の高いものとは対照的に、明らかに命題の一部となる様態を表す副詞は、以下のように必ず助動詞の後ろに現れる。

(57) \*你们径自可以做出决定。 (57)' 你们可以径自做出决定。

(58) \*他轻易不肯变的。 (58)' 他不肯轻易变的。

3.1 で触れたように、様態を表す副詞は、命題を表す副詞の中でも動詞の様態を表すために常に動詞に近い位置に現れ、助動詞の前に全く現れることができない。つまり、モダリティ成分として助動詞を含む述語全体を修飾することができない。

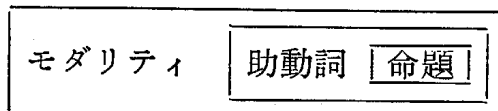
また、時間副詞“马上”のように、助動詞の前に現れて助動詞を含む述語全体を修飾したり、助動詞の後ろに現れて命題の一部を構成することもできる副詞もある。しかし、“马上”は、(48)～(50)のように現れる位置によって文意を変えるので、命題成分とみなすことができる。以上から、助動詞と副詞の語順については次のように大別できるであろう。

モダリティを表す副詞：助動詞の前

命題を表す副詞：助動詞の後ろ

“马上”のような時間副詞：個々の意義によって位置を決定する

さらに、日本語のモダリティ研究を参考にすると、以下のような図で文の構造を示すことができるのではないだろうか。



こうした結果によれば、劉月華等1983の助動詞の目的語についての記述は、不十分となる。問題となるのは、以下の二点である。

- 助動詞の目的語は状語を含むことができるが、目的語の中心語が動詞の

場合、その状語は普通の動詞述語文と同じである。

- 助動詞の目的語が形容詞、主述フレーズの場合、その状語は時間、範囲、語気などを表すものとなる。

下線を引いた部分に注目されたい。時間副詞、語気副詞について、本稿で見えてきたことに反することが分かっていただけであろう。

### 3.2.3 主語の前へ出る、語気を表す副詞

最後に語気副詞において、いくつかのものが主語の前に現れるという点に注目してみる。

- (59) 难道历史会重演吗？ (まさか歴史は繰り返されることはあるまい)  
(59)' 历史难道会重演吗？ (歴史はまさか繰り返されることはあるまい)  
(60) 也许他不回来了。 (彼は帰ってこないかもしれない)  
(60)' 他也许不回来了。 (彼は帰ってこないかもしれない)

文頭に現れる副詞は語気副詞の他にもあるが(一部の時間副詞、範囲副詞)<sup>4)</sup>、これら語気副詞に限っては主語の前にくる場合と、主語の後ろにくる場合では、ほとんど意味が変わらない。その理由は前述したように、これらの副詞が位置によって命題の情報量の増減に影響を及ぼさないためである。一方、以下の例から、範囲副詞“光”の場合、語気副詞とは異なり、位置によって文意が変わることがわかる。

- (61) 他光吃米饭。 (彼はほかの物を食べない)  
(61)' 光他吃米饭。 (ほかの人は米飯を食べない)

こういった現象が見られないのは、語気副詞の特徴である。しかし、語気副詞の中でも主語の前に現れるものは一部であり、語気副詞であれば、必ず主語の前に現れるわけではない。主語の前に現れる語気副詞を観察してみると、単音節副詞は現れないことが分かる<sup>5)</sup>。

- (62) 你真会说呀！ (62)' \*真你会说呀！  
(63) 他真是来了吗？ (63)' 真是他来了吗？  
(64) 我偏要走。 (64)' \*偏我要走。  
(65) 事情偏偏那么发展下去。 (65)' 偏偏事情那么发展下去。

しかし、単音節の副詞でなければ、そのすべてが主語の前に出られるわけでは

## 現代中国語における助動詞と副詞の語順について

ない。副詞が主語の前に出られるか否かを一覧として示すと、以下のようになる。

主語の前に出られる<sup>6)</sup>：本来，当然，大概，必然，好歹，横竖，好在，偏偏，  
当真，分明，肯定，其实，自然，似乎，到底，终究，  
究竟，或许，恐怕，居然，原来，其实，的确，确实，

主語の前に出られない：倒，偏，便，并，可，竟，绝对，千万，断然，实在，  
不必，何必，一定，必定

主語の前に出られない二音節副詞を眺めてみると、そこには以下のような特徴が見られる。

ア) 断然，绝对 → 後ろに否定詞を伴う

イ) 一定，必定，实在 → 肯定・否定の副詞にも分類可

ウ) 不必，何必 → 述語成分に近い

### 4. 終わりに

以上、一つの仮説のもとに副詞と助動詞の語順についてみてきた。助動詞の目的語は常に命題である、助動詞（二次的モダリティ）を修飾できるのはモダリティ成分であるという理由に基づき、「モダリティ>助動詞>命題」という順はほぼ固定しているといっておいてよいであろう。副詞からみると、ある副詞が命題、モダリティのどちらに属するかが、助動詞の前後どちらに現れるかの決定要因となる。

本稿においては、助動詞のモダリティ性について、多くは触れることができなかつたが、語順とモダリティという問題を考えるためには、助動詞自身や副詞自身のモダリティの階層という問題、語気助詞のモダリティ性について一層の研究が必要と思われる。残された課題については、今後とも研究を続けていきたいと思う。

[付記] 本稿の執筆にあたり、お茶の水女子大学の相原茂先生、楊達氏、呉志剛氏には惜しみない御助力を賜った。特に記して感謝の意を表したい。なお、本稿は筆者の卒業論文をもとにしたものである。

〈注〉

- 1) “再”, “还” の問題は本稿では取り上げない。
- 2) 『新訂 中国語概論』における分類をもとにした。
- 3) 玄宜青1992によれば, “确实”, “准保” などが疑問の焦点になり得る。
- 4) 時間副詞では“马上”, “刚才”, 範圍副詞では“只”, “光” 等。
- 5) 相原茂1990ですでに述べられている。
- 6) 実詞として主語の前に現れ, 後ろに停頓を伴うもの(例: 当然, 帮助不等于爱情。)も含まれている。

〈参考文献〉

- 呂叔湘 1980 《現代漢語八百詞》商務印書館
- 劉月華等 1983 《實用現代漢語語法》外語教學與研究出版社
- 劉月華 1983 〈狀語的分類和多項狀語的順序〉《語法研究和探索1》
- 姜匯川等 1989 《現代漢語副詞分類詞典》對外貿易教育出版社
- 傅雨賢 1983 〈副詞在句中的位置分布〉《漢語學習》第3期
- 玄宜青 1992 「現代中國語におけるモダリティを担う副詞的成分」『中國語學』第239号
- 藤堂明保・相原茂 1986 『新訂 中国語概論』大修館書店
- 相原茂 1990 「副詞の意味指向」『中国語』11月号
- 中右実 1980 「文副詞の比較」『日英語比較講座』第2卷 大修館書店
- 益岡隆志 1987 『命題の文法』くろしお出版
- 益岡隆志 1991 『モダリティの文法』くろしお出版
- 仁田義雄・益岡隆志編 1989 『日本語のモダリティ』くろしお出版